

伊根町立小学校再編計画（案）に対する意見及び回答

No.	意見箇所 (ページ)	意見内容	回答
1	2	審議会委員の十数名のみで幅広く議論した内容であり、伊根町民多数の意見を幅広く聞いていないし、町民多くを巻き込んだ議論もなされていないと意見します。 文部科学省令和5年度 学校規模の適正化及び少子化に対応した学校教育の充実策に関する実態調査でも「学校規模の適正化を図る上での課題や懸念」のうち91%の自治体があげた最大のものが保護者や地域住民との合意形成です。現状地域住民と合意形成出来ていません。 https://www.mext.go.jp/content/20240729-mtx_syoto02-000037270_1.pdf また平成27年文部科学省発出の「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」において、(P21) 検討前や検討の途中で保護者や地域住民のニーズや意見を聴取するためにアンケートや公聴会、パブリックコメント等を行うことが検討プロセスにおいて多く実施されていると記載あります。伊根町においては、ほぼスケジュールも決まった状態での一度だけの住民説明会と、パブリックコメントの募集（いね版で通知していますがよく知らない人が多く、これまで地域づくりや観光のアンケートは紙で募集されたことも踏まえて紙ベースでの配布が必要です）であり、住民の意見は取り入れてない状態です。 住民の意見を幅広く取り入れるために、広く伊根地区住民が参加した検討会や、紙ベースでの住民アンケートは最低限必要だと提案しました。	行政の施策に関する合意形成の方式には様々な態様があるものと考えますが、その中でも、関係諸団体の代表者や学識経験者により構成される審議会への諮問、答申の形態は、意見の集約、議論において優れたものであると認識しています。また、施設審議会においては、広く住民の意見を聴く機会を設けるため、令和7年2月に広く住民の方を対象とした中間報告会を実施するとともに会議内容は随時いねばんや広報いねにおいて発信し、ご意見の募集も行っていたところです。今後、さらなる住民説明会の実施も予定しており、住民の方との双方向のコミュニケーションの機会を設けております。
2	4	児童生徒の変化と必要な学校について 15年後の令和22年に伊根町の中学生は10名程度、小学生は40名弱との予測がありました。生徒数の変化についてはその通りだと考えます。10名程度の中学生で中学校の校舎が一つ必要なのでしょうか？ 近隣の市町では中学校生徒が「学年10名前後」で統合し橋立中学校に登校しています。15年後、20年後を見据えた時に、必要なのは小学校の新規建設ではなく、小中一貫校義務教育校と意見します。本庄小学校の存続に関しては本庄地区住民の考え次第になります。	小中連携により専門性の高い授業ができるように進めてまいります。
3	7	保育所の統合と合わせることの重要性は何でしょうか。保育所で一緒だった子どもたちが小学校で分かれることがスムーズではないということでしょうか。令和7年もあとわずかですがあと一年で小学生が統合して学習していく教育内容の方が不安があります。じっくりきちんと教育内容の構想を練ってほしい。他校の視察する必要もあると思う。保育所統合に合わせなくてもよいと思う。	本計画における再編時期は、安心安全のために早期に学校施設を整備することを前提に、その上で児童のギャップをいかに軽減できるかを検討した文言です。
4	7	既存校舎を解体時にグラウンドに仮施設を設置し、本庄小学校のまま通うことはできないのでしょうか？又は既存校舎以外の場所（本庄中学校跡地等）に立て直す案等はないのでしょうか？	旧本庄中学校も候補地として検討しましたが、同数地は土砂災害警戒区域に指定されており、用地も不足することが見込まれます。再編候補地となる現行の教育施設又はかつての学校教育施設の中では、本庄小学校が比較的立地の安全性は担保されていることから選定したものです。
5	7	新設校舎を校庭側に建て、既存の学校に通わせたい。	グラウンド側への新校舎の建設は、教育効果を最大限発揮できる施設とするため、どのような配置が効果的か検証していく必要があり、また、校舎を残したまま新築工事に着手する場合、建設と解体のスケジュールが長期化することにもつながり、現時点では想定していません。
6	7	本庄保育所は、休所と聞いております。保育施設と小学校は近接な立地であることが望ましいと考えます。	現時点で保育施設を小学校に近接して配置する計画はありません。
7	7	3年間にわたる審議を経て提出された学校施設審議会の答申内容を尊重するという文言について 学校施設審議会は、12名の代表委員で構成されているが、多くは組織内での議論が全く実施されておらず、個人の意見である。伊根町教育委員会は、3年間組織での議論が行われなかったことについて「組織の問題である」との回答であったが、事務局として参加委員に「個人の意見ではなく、組織内で議論を深めてください」と指導する責務があるのではないかと 会議中にも「たった12名でこのような学校統合を決めるのは荷が重い」との発言が委員からあったと聞く。組織の意見を背負っていたら、このような発言は出ないはず。再度のアンケートや住民内での意見交換の場を求めます。	行政の施策に関する合意形成の方式には様々な態様があるものと考えますが、その中でも、関係諸団体の代表者や学識経験者により構成される審議会への諮問、答申の形態は、意見の集約、議論において優れたものであると認識しています。また、施設審議会においては、広く住民の意見を聴く機会を設けるため、令和7年2月に広く住民の方を対象とした中間報告会を実施するとともに会議内容は随時いねばんや広報いねにおいて発信し、ご意見の募集も行っていたところです。今後、さらなる住民説明会の実施も予定しており、住民の方との双方向のコミュニケーションの機会を設けております。
8	7	新設小学校の設置場所は、現本庄小学校の現在地について 反対します。本庄小学校の現在地にした理由の一番に通学距離や安全性が出ていますが、通学距離が長くなる人数がより多くなる本庄小学校が良い理由がわかりません。	ご意見として、真摯に受け止めさせていただきます。
9	7	再編時期についての反対意見 令和9年に再編するのは拙速すぎます。住民内での丁寧な議論や意見交換をするつもりがないように見えます。（学校施設審議会においては、地域住民の意見を幅広く取り入れたとは考えられません）	令和3年度に小学校施設の屋内運動場が長寿命化工事が実施できないことが判明してから、施設の在り方を検討し、4年以上の歳月が経過しました。この間、在り方について議論を尽くし、教育施設の安全性の確保について迅速に対応することが施設審議会の答申に盛り込まれました。教育委員会では、一刻も早い新校舎完成が、住民のその思いに対する答えだと考えています。
10	7	設置場所 新規に立て直すこと、約20億の資金を使う必要があるのか？子供の人数が減少していく中なので、全体を見据え教育の現場を考える必要があると考えます。今後、町の人口も減少の予測が出ている中、町民の負担も増えることになる20、30年先のことを考えて決定していただきたい。 現小学校が古い建物なら小中一貫の教育を推進し、伊根中学校を増築等検討していけば対応できると推察されます。	教育施設の整備には国庫支出金、地方財政措置の活用が可能なものです。小中連携により専門性の高い授業ができるように進めてまいります。

No.	意見箇所 (ページ)	意見内容	回答
11	8	伊根町らしさを体現する優れた先進事例として成功させるために長い期間をかけて新校舎を建てるその時間の児童の教育が不安定にならないようにしてほしい。その期間の児童が不安定にならないように慎重に考えて頂きたい。 本庄小の児童が環境を変えずに本庄小のまま通えるようにしてほしい。	学校生活の途中で他の学校施設に移動する児童、また受け入れる側の児童が抱く不安が大きくなることは教育委員会としても認識しています。また、児童と同様に保護者の方が抱かれる不安に加え、教職員の不安があることも認識しています。令和8年度からきめ細かな対応をとり、その不安を少しでも和らげることができるよう努めます。
12	8	今後、児童数が減少することが見込まれる中で、多様な人間関係の構築や集団生活の充実・切磋琢磨する学び合いの環境を整える、とのことですが、伊根町は美しい村連合に加入しており、日美の教育ネットワークがあると聞いています。へき地教育研究の先生のお話を開催もしましたが、全国の日美の教育ネットワークに繋がっている学校との交流、オンラインなどで児童同士の交流を取り入れたら良いのではないかと。全国のへき地教育で素晴らしい小規模校の教育を実践されていることを聞きました。そういった学校への視察、研究、交流をどんどん取り入れてほしいです。そして、伊根町の児童たちが全国の日美加入の町の児童たちと交流してほしいです。それぞれの町を子どもたちが語れるような教育を進めて下さい。そして、伊根町の学校に全国から視察研修に来てもらえるようなそんな、学校、教育と一緒につくっていききたいです。 日美村教育ネットワークの理事をされている方に一度、お話をお願いして開催しました。ぜひ、こういった勉強会を教育委員会でも開催して頂きたいです。 日美村教育ネットワークの全国様々なへき地教育をしている学校の事例もやはり、少ない人数で、どう子どもたちを伸ばしていくか！！どう多様な人間関係を構築するのか！！こういったことに関する事例も先進的に考えて実践されていますね。多人数の良さもありますが、少人数の教育の可能性も無限にあると思いますから、そこを重点に教育の在り方を考えてもらいたい。1人でもその子を最大限伸ばせる教育を考えても良いんじゃないでしょうか。	毎年度、教育委員会では近畿、京都府、丹後地域における講演や先進地視察を実施しております。 その他、視察交流等について情報収集に努めます。
13	8	福祉という点で、保育所の併設を考えてもよいのではないのでしょうか。現在、本庄小と本庄保が隣接していることで、運動会の保育園児の参加の他にも、普段の授業の発表の場として、保育所に訪問したり、又は園児を授業に招いたりしています。児童たちの学習の張り合いや学習意欲の向上に繋がっているように思えます。	現時点で保育施設を小学校に近接して配置する計画はありません。現在実施している保小連携の取組は継続して実施してまいります。
14	8	本庄小学校の特色ある交流学習（地域の人たちとの交流学習）は続けていってもらいたいです。	再編準備委員会（仮称）でも共有の上、各小学校の特色ある学習は継続予定です。
15	8	伊根町らしさって具体的になんですか？	本計画で用いている伊根町らしさとは、施設審議会答申にもあった表現ですが、町の教育の根本となる方針を定めた伊根町教育大綱にも「伊根町ならではの教育振興」という類似表現があります。教育大綱では、7項目の重点目標を掲げていますが、それらを伊根町の地域特性、文化特性に合わせて作り上げていく伊根町ならではの教育振興が伊根町らしさに繋がっていくものと考えます。
16	8	本庄地区はとても良い地区です。最初に述べておきます。しかし伊根町全体で見た場合に、近隣市町からの距離は遠くなるため、選択する移住者は少数です。保育園は日出、小学校は本庄、中学校は平田と、バラバラに存在することは、移住者を呼び込みたい僻地においてむしろデメリットになります。子育て施設は地域住民が多く集まっている所に、まとまって存在することが利便性の向上と子育て世代の流入につながります。国土交通省国土技術政策総合研究所「子育てに配慮した住宅及び居住環境に関するガイドライン」"II-5-3 小中学校が近くにあることがメリット https://www.nilim.go.jp/lab/hbg/kosodate/kosodate_zenpen.pdf 2025年11月1日 日経新聞でも、群馬県片品村の取り組みを紹介し、「小学校や保育園児童館が村の中心部に集まっており子育てしやすい」と記載があります。今回の小学校を本庄地区に移転することは、本庄地区への移住者は増えるかもしれないが、伊根町全体では子育て世代流入に間違いなくマイナス影響です。伊根町において住民が一番多い伊根地区が妥当と考えます。	ご意見として、真摯に受け止めさせていただきます。
17	8	伊根町らしさを体現する優れた先進事例についてぜひ具体例を出していただきたい。自分の結論を述べると、そんなものはどこにも存在しない。もしあったとしたら、すでに実現し取り組んでいます。私の想像もつかないような素晴らしい案があるならぜひ聞きたいです。現在無いものをさもあるかのように語ることはやめてください。	本文言は、施設審議会答申の付言から引用したものです。答申を基にしたこれからの施策について言及されたものであり、教育委員会としては、これを現実のものとするべく、伊根町の特性に応じた教育の振興に努める所存です。
18	8	生徒数が多いメリットもわかるが、現在の本庄小学校は生徒数が少ないながらも少ないを最大限に活かして本当に良い教育がされていると思う。先生方には本当に感謝しかない。再編を急ぐ必要性を感じない。ただ施設はより安全なものにする必要はあると思うので、建替えはやむ負えない。もちろん本庄小学校の場所は大賛成	施設審議会の答申において、統合の必要性に言及があったもので、2校を維持する方針は想定していないところです。
19	8	件名の通り、小学校再編計画に対する意見を表明します。 計画の方針については概ね賛成です。 ただし、以下の点については具体的な対策をしていただくよう強く要望します。 新校舎完成までの間、現伊根小学校に通学ということですが、現伊根小学校は耐震性や老朽化の問題、そして観光客の無断立ち入りや周囲の交通状況の悪さなど、さまざまな問題があります。これらの問題については立て替えまでの期間も放置せず、児童が安全に学校生活を送れるよう、対策していただきたいです。	現施設へのソフト、ハード面は、適切に対応する予定です。本件は施設審議会の答申においても言及のあった事項であるため、計画に明記します。なお、耐震性については、伊根小学校及び本庄小学校施設において現状、問題はないものです。

No.	意見箇所 (ページ)	意見内容	回答
20	8	私も、子供とかかわることに２０年以上参加しています。そのうえで、子供の教育は一定数の人数が子供のために必要と考え、感じてます。少人数が良くないことは思いませんが、一定数（２０～３０人）のクラスでの学び（人間関係の形成）が子供たちには必要と考えます。「伊根町らしさを体現する」という趣旨が具体的にどんなものなのか理解が出来ません。どこ地域の子供たちを見ているの違いがわかりません。 繰り返しますが、小中一貫を再検討してください。これからの子供のためにも。	ご意見として、真摯に受け止めさせていただきます。本文言は、施設審議会答申の付言から引用したものです。答申を基にしたこれからの施策について言及されたものであり、教育委員会としては、これを現実のものとするべく、伊根町の特性に応じた教育の振興に努める所存です。
21	8	小学校エリアに関係者以外が入らないための防犯の処置 学校施設内に地域交流施設などを設置することは賛成ですが、誰でも入れる状態では不審者の侵入もできてしまって盗難、盗撮、いたづらなどのリスクがあるので、教室など小学校専用の敷地に関係者以外が自由に立ち入れない仕組みにしてほしいと思います。必ず受付を通る必要がある、下校時刻以降は小学校につながる玄関を施錠するなど。	新施設での外部と内部の分離、セキュリティについては、設計段階で十分に検討してまいります。
22	8	予備教室を多めに作っておくこと 現在伊根町には学校に行きづらい子のステップや受け皿となる適応指導教室や、発達障害の子の居場所や専門教育の場である特別支援学級（情緒）、児童デイサービスなどがなく、専門知識の必要なケアを十分受けられていない子どもたちがいるのが現状です。現在の教室数の実績（普通教室、知的特別支援学級教室、通級指導教室、サポートルーム）の他に、必要とあれば情緒支援学級、適応指導教室、児童発達支援事業の訪問先として使える予備の教室を作れるよう、部屋数に余裕をもった設計をしてほしいと思います。	教育委員会としても、多様な需要を満たすことのできる余裕を持った教室、各種スペースの配置を検討しています。
23	8	学童に通っていない子が遊びに行ける児童館を要望すること 現状、学童に行っていない子は、自分で行ける範囲の集落に子供がいなかったり、親が仲介して送迎する必要があるなど、約束なしに集まって遊んだりする場所や機会がありません。地域交流スペースの中に、けん玉や将棋、ボードゲームなどを常設し学童に行っていない子どもや親子が自由に遊びに行ける児童館の役割を含めてほしいと思います。また、それを休日も開放してほしいです。	親子が自由に遊ぶことができる機能については、設計段階で検討することを予定しています。
24	8	教育効果の最大化 ハード整備に加え、教育内容などのソフト面についても十分に議論していただきたいです。本庄小学校で実施されている、実質的な教科担任制に近い体制は非常に有益だと思います。 再編後もこのノウハウを活かし、可能な範囲で教科担任制的な運営を導入することで、教員負担の軽減と授業の質向上が期待できます。これらの方針を踏まえて校舎設計を行うことも重要だと考えます。	2 小学校の教職員が知恵を絞り実施してきた取組は継続し、積み上げてきた成果がゼロベースに戻ることが決していないよう教育委員会としても学校をサポートしていきます。
25	9	解体費用についていくらかが書かれてない。いくらか教えて頂きたい。	事業費の試算に当たっては、簡川文化センターの解体事業を参考とし、校舎で約1億6千万円、屋内運動場で約7千万円と試算しています。
26	9	工事期間の短縮 12 年度から、新校舎への移転を望みます。	事業期間が短くなるように関係機関と適切な協議を進めます。
27	9	複式学級を続けてほしいから統合してほしいとの意見をもつ保護者の方もおられます。異なる学年の児童たちが相互に教え教わるという関わりあうことで、教師が一方的に児童に教えるだけでは得られない人同士のつながり、愛着の形成のようなものがあるのかもしれませんが。複式学級を望む保護者の意見を是非取り入れて、複式学級の良さも取り入れた教育形態になることを望みます。	複式学級には研究すべきメリットもあると承知しています。一方、人数が多ければさまざまな授業形態、意見交流できる機会の選択肢が増えるだろうという考えが前提にあります。少人数の中での授業の工夫等、教職員が知恵を絞り実施している取組は継続し、積み上げてきた成果がゼロベースに戻ることが決していないよう考えてまいります。
28	11	伊根小学校は観光の入り口となっており、子供たちの学校生活の安全性について心配。	注意看板設置後は校庭、グラウンドへの侵入は激減しており、校舎への無断侵入は従前から発生しておりません。警察と連携し適切に対応しております。
29	11	現時点で伊根小学校保護者より安全性について指摘がある中、そこに通わせるというのは心配です。安全性に関してどのように対応される予定なのか具体的な対策方法を知りたい。できれば、安全対策をしてからの伊根小学校への移動が望ましいです。	注意看板設置後は校庭、グラウンドへの侵入は激減しており、校舎への無断侵入は従前から発生しておりません。警察と連携し適切に対応しております。また、ハード面での対策などは必要に応じて実施していきます。
30	11	本庄地区コミュニティセンターで放課後児童クラブを開所予定ですが、子供たちが運動等をする際はどこで運動したらいいのでしょうか？	運動施設に限らず、児童クラブの運営上の必要に応じ、コミュニティセンターの利用方法を検討し、対応を考えていきます。
31	11	新校舎完成後も本庄地区、伊根地区の2ヶ所で行い、送迎は、保護者にまかせるべきと考えます。スクールバスは、学校の授業時間に合せて運行されるべきと考えます。	放課後児童クラブの支援の単位の数については、人員等、児童クラブの運営上の観点から1 施設での運営を予定しています。
32	11	本庄小学校の生徒が約3 年半の期間を伊根小学校に通うことについて、伊根小学校への不安要素、町民でない観光客が多い環境にある中、そして本庄小学校ならではの稲作りや海での水泳訓練等をその期間本庄から離れてしまうことは、その子供たちにとって大きな損失をうむのではと懸念している。どうか本庄から離れないで学校生活をおくれる方法を検討して頂きたい。	学校生活の途中で他の学校施設に移動する児童、また受け入れる側の児童が抱く不安が大きくなることは教育委員会としても認識しています。また、児童と同様に保護者の方が抱かれる不安に加え、教職員の不安があることも認識しています。令和8 年度からきめ細かな対応をとり、その不安を少しでも和らげることができるよう努めます。

No.	意見箇所 (ページ)	意見内容	回答
33	11	<p>伊根小学校の場所は観光地「いね」の入口にあります。商工会にトイレがある関係で観光客が自由に出入りでき、盗撮が問題になっているという話を聞いています。環境も本庄小学校と違い、狭く田んぼや畑もありません。新設校が本庄小学校の場所というのは大賛成です。しかしながら建設期間中の3年半と言うのは小学校生活の半分以上をしめます。</p> <p>今の本庄小学校の校舎の場所ではなく、校庭の場所に新しい建物を立てて頂き、本庄小学校の児童が引き続き建設期間も本庄小学校で学べることを強く希望します。</p> <p>また2つの学校が行ってきた教育のよさを1年足らずの会議で方向性を決めて翌年から一緒になることに無理を感じています。保育園と合わせる必要性が何も感じられず、別にそこに合わせる必要性がないと思います。</p> <p>何かが動く時、全て叶えることは難かしいのはわかりますが、3年半そこに関わる児童のことを1番考えてほしいと願っています。よろしくお願い致します。</p>	<p>注意看板設置後は校庭、グラウンドへの侵入は激減しており、校舎への無断侵入は従前から発生しておりません。警察と連携し適切に対応しております。</p> <p>本庄小学校の教育内容について良い感想をお持ちいただいていることには感謝しかありません。その上で、小学校教育は、町立小学校が同じ水準の教育を提供する必要があります。現在の小学校教育の水準を維持し、さらに向上していくことは教育委員会の責務であると認識しています。</p> <p>グラウンド側への新校舎の建設は、教育効果を最大限発揮できる施設とするため、どのような配置が効果的か検証していく必要があります。また、校舎を残したまま新築工事に着手する場合、建設と解体のスケジュールが長期化することにもつながり、現時点では想定していません。</p>
34	11	<p>再編期間中の運用について、本庄小学校の児童は本庄コミュニティセンターで開所の予定と記載があります。校区に関係なく教育を受ける期間であるため、どちらの放課後児童クラブに通ったとしても子ども達への影響はないと思います。つきましては、保護者の生活環境へ配慮する目的で、放課後児童クラブの申込時に利用する地区を選択できるよう運用していただくことを希望します。</p> <p>再編期間中の放課後児童クラブが楽器部屋と同じ部屋で運用されることを想定しているようでしたら、楽器部屋の活動を廃止することなく放課後児童クラブを運営していただくことを希望します。楽器部屋に配備した音楽機材の中には寄贈いただいたアップライトピアノやオルガン・ギターなどを設置しています。これらの楽器は放課後児童クラブの活動に利用していただくことも可能です。本庄コミュニティセンター内の同じ部屋で運用することを予定されていまして、楽器部屋併設による効果的な運用用法を含めて、是非とも調整をお願いしたいです。</p>	<p>放課後児童クラブの運用については、家庭の事情により一定の配慮を行ってきた例もあります。個別に教育委員会までご相談ください。</p>
35	11	<p>希望者は伊根の放課後児童クラブを利用できる仕組みを求めます。</p> <p>また本庄へ移転後も、伊根地区同様の送迎支援をいただければ大変ありがたいです。</p> <p>あわせて、共働世帯の防犯上の観点から、高学年児童の受け入れ拡大も検討してほしいです。</p>	<p>放課後児童クラブの運用については、家庭の事情により一定の配慮を行ってきた例もあります。個別に教育委員会までご相談ください。</p>
36	12	<p>令和9年度から再編し1つにするということだが、計画書にも書かれている通り多様な事案について検討していかなければならない。1年という短い期間であまりにも負担が大きいのではないか。より負担が少なくなるような方法を十分考えて頂きたい。</p>	<p>学校生活の途中で他の学校施設に移動する児童、また受け入れる側の児童が抱く不安が大きくなることは教育委員会としても認識しています。また、児童と同様に保護者の方が抱かれる不安に加え、教職員の不安があることも認識しています。令和8年度からきめ細かな対応をとり、その不安を少しでも和らげることができるよう努めます。</p>
37	12	<p>スケジュール内のイメージ（案）に閉校記念誌の項目がありましたが、今回は再編なので、閉校記念誌を作成する必要はないと考えます。完成当初の関係各所へ配布・購入されたタイミングでは、卒業生一覧の名簿と写真を閲覧し、当時の思い出を振り返る人達は多かったと聞きますが、その瞬間の效果に留まり、配布された後に現代の子ども達の教育教材として活用されたという事例を知りません。数年経って閉校記念誌が効果的に活用されている事例を知りません。つきましては、再編に伴い本庄小学校・伊根小学校それぞれで閉校記念誌を作成する予定でしたら、旧本庄中学校閉校記念誌を作成した経験から、費用対効果が得られるような価値はないと考えますので反対します。</p> <p>また事務作業が得意であろうという観点から、役場職員に対して閉校記念誌作成委員を委嘱することに関しても反対します。各小学校を卒業した現役公務員だからという理由で委嘱されると、断ることが困難であり半ば強制的に委員を委嘱してしまうのではないかと危惧します。役場職員でしたら、旧本庄中学校の委員のように、途中で退任することも立場上困難です。役場職員のリソースは、刹那的な感情の起伏や一部の人の自己満足の成果物としての閉校記念誌に割くのではなく、今伊根町で暮らす人達の奉仕者として行動すべき部分に割くべきであると考えます。</p>	<p>式典等の取扱いについては、再編準備委員会（仮称）にて個別に検討して判断いたします。</p>
38	12	<p>学校運営に係る再編準備日程</p> <p>教育内容の再検討や小中一貫校の将来像まで含めて議論するのであれば、現行スケジュールでは時間が不足するのではないかと懸念しています。</p> <p>統合を早めに進めたい気持ちはありますが、議論が不十分なまま校舎建設が進むことは望んでいません。</p>	<p>スピード感と丁寧な議論は、どちらが欠けてもならないと考えています。教育委員会としては、その両軸が最大公約数となるように努めてまいります。</p>
39	13	<p>本庄小に統合するより、伊根小に集約をし、在籍数が多い伊根小を本庄小に移動するのではなく、本庄小の子供を伊根小になぜ行かせないのか？その方がスクールバスの費用がいらない。</p>	<p>教育委員会では、立地の安全性、用地確保の利便等のメリットに加え、通学距離の比較、付近の公共施設等との距離等の比較を含めた総合的な判断により現行の本庄小学校の位置に再編校を整備することが良いと判断しました。また、スクールバスはいずれの場所に小学校を設置する場合も複数台運行する必要があります。</p>

No.	意見箇所 (ページ)	意見内容	回答
40	13	3年間という長い期間を伊根小に通う負担については一番不安があります。3年間も違う小学校に通うことへ、かなり負担がかかるだろうと思うからです。そして、本庄小の教育の素晴らしさを分かっているのも、3年間、どうなるのかも分からない教育体勢にとても不安があります。この3年間の負担をかけなくても良い案も考えてほしいです。本庄小のグラウンド側に新校舎を建てることも可能ではないでしょうか。その場合の課題もあると思いますが、体育や運動会などは、本庄中のグラウンドが使えないか、工事の騒音は、窓を閉めておけば授業に問題ない（夏はエアコンがあるので閉めている）、というような、経験者の意見も聞いています。	本庄小学校の教育内容について良い感想をお持ちいただいていることには感謝しかありません。その上で、小学校教育は、町立小学校が同じ水準の教育を提供する必要があります。現在の小学校教育の水準を維持し、さらに向上していくことは教育委員会の務めであると認識しています。 グラウンド側への新校舎の建設は、教育効果を最大限発揮できる施設とするため、どのような配置が効果的か検証していく必要があります。また、校舎を残したまま新築工事に着手する場合、建設と解体のスケジュールが長期化することにもつながり、現時点では想定していません。
41	13	教職員だけではなく教育委員会職員に対する業務負担も削減できるものは排除して、スケジュールの遅れが無いように必要な開講準備等の事務に従事していただきたいと思います。今まで保護者からの意見を吸い上げていただき、審議会を重ねて丁寧に事務を進めてきていただいています。例えば今回のパブリックコメントで「小学校再編の話は初めて聞いた。1回の説明だけで決定して進めるのは横暴である。もっと住民への説明を丁寧に行うべきだ」という意見を受け入れて、各自治会で住民説明会などを開催されてしまっは、そこに時間を割いてしまった分、再編完了までの時間が先送りになってしまいます。上記のような住民説明会を開催する余力があるなら、スケジュールの前倒しを図っていただきたいです。今回のようにパブリックコメントを実施している場面で何も意見を出さずに、教育委員会の説明不足とだけ嘆く住民がもし存在するとしたら、それは単なるクレーマーであるという考えもあるのではないかと思います。本計画では小学校再編準備委員を設置して再編準備を行うと記載があるので、その運用次第で住民として不安に思う点も解消されるのではないかと思います。私は今回のパブリックコメントに至るまでの教育委員会の事務において、住民への説明が不十分であるとは全く思いません。	本パブリックコメントを受けた計画案の修正やご意見への説明として、住民の方とコミュニケーションをとる機会は必要と考えております。教育委員会としても迅速な事業の実施について進めてまいります。
42	13	開校準備等に係る教職員への負担 開校準備等に関連して、行事や式典の数・規模を見直し、業務の棚卸しによる業務改善を計画的に進め、教員の負担軽減を図ってほしいです。 行事が多いと日常の授業準備や児童への支援が圧迫される可能性があります。	働き方改革の動きは、再編とは別に取り組んでいるところです。今回の再編に当たって教職員に過度な負担が生じないよう、人員配置、業務の調整について十分に配慮します。
43	14	学校間による交流会、合同行事、合同授業等を行うとのこと大変すばらしいと思います。ただ、それでも児童にかかる負担はかなり大きいでしょう。児童によっては二度の転校を経験することになります。スクールカウンセラーなど、心のケアをする職員の配置についても検討いただきたいです。また学校でのカウンセリング以外にも学校以外の居場所が子どもたちに提供されることを望みます。きっと今現在学校に行けていない児童の役に立ちます。	現在も制度化している教育支援員、スクールソーシャルワーカー等の職員を有効配置し、児童の心身のケアに対応していくことを予定しています。
44	14	放課後児童クラブも小学校と同様に統合するということですが、ここでも同様に児童への負担をなるべく少なくできるように対策してください。現在両児童クラブの雰囲気はかなり違うと聞いたことがあるので、もしそれが事実ならストレスはかなり大きいはずです。また職員の確保が、統合されることによってさらに難しくなるのではと危惧しています。職員の方の働きやすさについても対策をしっかりと行っていただきたいです。	児童クラブごとの特色、雰囲気を踏まえ、支援員と協議の上、学校生活と同様にギャップのない児童クラブの体制を整えていきます。
45	4, 8	小中一貫校についての長期展望 今後も児童生徒数の減少が続くとの見通しから、将来的な小中一貫校化を視野に入れた長期的検討が必要だと考えます。 新校舎の建設にあたっては、将来の一貫化や増築の可能性を踏まえた拡張性のある設計を検討してほしいです。 教育の持続性と町の魅力向上の両面から重要な視点だと考えます。	今後人口が減少して子どもが少なくなる中、他の用途にも活用可能な形での施設とすることの提言があったところで、教育委員会としても、社会教育、図書施設、その他地域のコミュニティ機能を有した施設とする等、無駄なく施設を活用できる形で施設マネジメントを進めていきます。

No.	意見箇所 (ページ)	意見内容	回答
46	7～13	<p>「●該当項目 「3 小学校再編の方針」(P7)「4 小学校再編により目指す効果」(P8)「5 小学校再編に係る全体計画」(P9～P12)「6 児童・保護者・教職員に関する配慮すべき事項」(P13) ●意見内容 新校舎で実施される教育内容が具体化されていないにもかかわらず、設計・工事を先行して進める計画には強い懸念があります。 教育内容と施設整備は密接に関係しており、教育方針が定まらないまま設計に着手することは、将来の教育の質にも大きく影響すると考えます。まずは「新しい学校でどのような教育を行うのか」を議論する枠組みを早急に設置し、教育ビジョンを明確にしたうえで設計に進むべきではないでしょうか。 ●理由 1. 教育内容が不明確なままでは、適切な施設・設備を設計できないため 教室構成、学習形態(個別最適・協働学習・異学年交流)、特別教室、地域連携スペース、ICT環境などは、教育モデルによって大きく変わります。現行案では、統合後にどのような教育を展開するのか、具体的な学習像が示されておらず、施設の設計要件を判断する材料が不十分です。 1. 複式学級の利点・課題の整理がされておらず、統合後の指導体制が不透明であるため 複式には課題がある一方で、少人数ならではの良さも住民アンケートで指摘されています。統合後に単式学級になるのか、少人数指導をどう発展させるのか、異学年間交流をどう位置づけるのかなど、教育の基本方針が示されていません。 1. 地域複合施設としてどのように教育と連携するのが不明確であるため 学校を「地域に開かれた複合施設」とする方針は示されていますが、図書館機能、交流スペース、地域資源学習などを教育にどう組み込むかが説明されていません。これらは設計の根幹に影響する要素であり、概念レベルでは不足があると考えます。 1. 教育の姿が固まらないまま設計を進めると、将来的に大きな負担や制約が生じるため 学校施設は数十年使うものであり、後から教育内容に合わせて改修することは大きなコスト増につながります。「教育方針→設計」という順序を逆転させてしまうと、教育の可能性を狭めるリスクがあります。 1. 住民アンケートにおいても教育内容の議論不足が多数指摘されているため 追加資料でも「教育内容が示されていない」「理念だけで具体性がない」といった住民意見が複数見られます。教育ビジョンの共有は住民理解の形成にも不可欠です。 ご検討どうぞ宜しくお願い致します。</p>	<p>施設の設計においては、伊根町総合計画及び町の教育の根本となる方針を定めた伊根町教育大綱を柱とし、施設の具体的な設備・備品に落とし込むことを予定しています。具体的な設計内容は、地域、保護者、学校関係者、学識経験者を構成員とする再編準備委員会(仮称)によって検討していくものです。 施設が教育大綱等と合致するかの観点から議論し、より良い施設を目指します。</p>
47	9, 10	<p>工事等の事業費、当初に町長の意向は、2校の維持をお考えでした。 教育には惜しみなく、ケチることなく、子ども一人一人の豊かな教育のために財源を使ってほしい。今回の事業期間は、非常に長いことから、子どもの1日1日、1年1年を大切にしたい事業計画を考えてほしい。</p>	<p>保育所、保育園の保護者からの要望を受けて、教育委員会として小学校を再編する計画を策定しております。事業期間が短くなるように関係機関と適切な協議を進めます。</p>
48	9, 10	<p>工事の事業費について 新築と、長寿化の二つしかなく、恣意的です。ぜひ中学校を増築して小中一貫、義務教育校とする場合の費用見積もりも参考として出していきたい。</p>	<p>教育施設の長寿化計画からの施設マネジメントの方向性の修正に当たり、施設審議会の答申に基づいて本計画案を策定しているものです。</p>
49	9, 10	<p>工事の事業費について 事業費が高すぎます。これは費用見積もりが不当だと言っているわけではありません。この2年間でマンションの建築コストは2倍になっており、4年後に本庄小学校新築費用が30億になっていたとしても驚きません。年間予算が38億の自治体で、かつ15年後に小中学生が50名弱になり小中一貫を再検討する可能性が高い過疎地域において、来年度から21億の小学校建築プロジェクトを予定することに反対しています。2025年11月9日京都新聞丹後中丹版で宮津市庁舎の移転について記事がありました。「多額の事業費(約24億円)なども若い世代の負担になる懸念」とあり、人口、歳入規模約10倍の近隣自治体でも24億は将来世代の負担になると議論されています。</p>	<p>自治体庁舎と異なり、教育施設の整備には国庫支出金、地方財政措置の活用が可能なものです。また、耐力度が不足することにより2小学校の屋内運動場が長寿化工事を実施できない以上、施設維持のためには2小学校の屋内運動場を新築する必要が生じるものです。</p>
50	その他	<p>商工会の建物、伊根小の門の設置 そもそも、伊根小に外国人が入って来るのは、商工会の建物が、伊根小の敷地内にあり、門が作れないための事と聞いているが商工会の建物を移動し、門を作ってしまうえば観光客との分離は出来ると思う。あと、トイレもわざわざ、商工会の内に入らせずに、観光協会の敷地内に作るなどまたは、無くす。(トイレを)集約七面山P等に。するなどして頂きたい。</p>	<p>学校教育施設の敷地への部外者の無断侵入については、警察との協議を通じて対応しているところです。 町長部局とも連携し、施設整備や注意看板の設置など適切に対応していきたいと考えています。</p>
51	その他	<p>伊根町立小のあと地 色々な話が出てるが、小学校のあと地に観光客向けのパーキングを作ると言う話が出て来ているのは本当なのか？</p>	<p>再編後の活用について現時点で検討・協議をしておりません。</p>

No.	意見箇所 (ページ)	意見内容	回答
52	その他	伊根小学校を廃止することについて反対 地元伊根町に帰ってきた一番の理由は、自分の子供にも小学生のうちから伊根小学校に通ってほしい、伊根町を好きになってほしいという思いからでした。伊根地区から小学校がなくなると伊根地区は子育てに向かない地区と行政から認定された地区になります。どのように言葉を取り繕ったとしても、事実として保育園、小学校、中学校が10km離れてしまうと子育て世帯には住みづらい環境です。この環境に親としてもぜひ戻ってこいとは言えない。子供たちが帰ってこない選択肢をとった場合には、子供の住む所に転出することを考えています。子育てに向いていない地区となってしまう伊根に自分の子供が戻ってこない場合には、親世代も居なくなります。	ご意見として、真摯に受け止めさせていただきます。伊根地区は子育てに向かない地区と認定されたという点については、伊根地区には現に伊根中学校があり、通っている生徒がいる中、教育委員会として伊根地区と教育を切り離すという考えは全くありません。
53	その他	伊根地区から小学校を移転することにとっても強く反対します。伊根地区舟屋に居住し子育てをしてきました。舟屋を観光資源として利用してもらい、海から観光客に生活を見られても、朝6時に寝ている横で観光客が大声で話しながら敷地内に入ってきて、子供の下校時に観光客に話しかけられても、土日や連休には車の渋滞が出来不便になってもこれまで黙って受け入れてきました。しかし、その結果伊根町や施設審議会から、今回の伊根小学校移転を審議会決定されることは受入れられません。伊根地区は観光客が多いため子育てに向いていない、今後は子育て地区ではなく観光地区とすと言われたようなものです。学校施設審議会では伊根小学校周辺環境を不安視する保育園保護者の声が出たことも、議論の流れで大きかったと聞きました。観光客への不安があるのは理解できますが、その結果が伊根小学校を無くすことは伊根町の発展に結びつきません。伊根町が行うのは、小学校を移転することではなく、観光客対策や、観光客が比較的小さい伊根中学校敷地を有効活用することだと考えます。	ご意見として、真摯に受け止めさせていただきます。
54	その他	その他として、この案件が令和5年度から検討されているということを知ったのは今年に入ってからです。余りにも該当者以外の町民への周知が蔑ろにされているように感じます。1年2年で終わるような事柄ではないので、町民への説明、意見収集をよろしくお願いします。	施設審議会においては、広く住民の意見を聴く機会を設けるため、令和7年2月に広く住民の方を対象とした中間報告会を実施するとともに会議内容は随時いねばんや広報いねにおいて発信し、ご意見の募集も行っていたところです。今後、さらなる住民説明会の実施も予定しており、住民の方との双方向のコミュニケーションの機会を設けております。
55	その他	資料を一読ではありますが、全て読ませていただきました。 町民全員が議論に参加することは難しい現実の中、代表として議論してくださった皆様、その場にはいない様々な立場の人の分まで慮って議論を尽くして下さったことがよくわかりました。 予算の制約はありますが、最初から設計に入れることができれば、同じ予算内での施設でもあとから大きく役立つものもあると思います。担当の皆様、議論に参加される皆様に篤く御礼申し上げます。	ご意見ありがとうございます。